

# 花はどこへいった (AGENT ORANGE—A PERSONAL REQUIEM—)

2008(平成20)年6月2日鑑賞(松竹試写室)

★★★



監督・製作・撮影・編集=坂田雅子/主な登場人物=グレッグ・デビス/フィリップ・ジョーンズ=グリフィス (シグロ配給/2007年日本映画/71分)

## 第3章

傑作・佳作がいっぱい!

……タイトルを覗ただけで、何の映画かわかるあなたは偉い! 07年夏の『ひめゆり』(06年)、『ヒロシマナガサキ』(07年)、『TOKKO—特攻—』(07年)に続く、08年夏のドキュメンタリー必見作がこれ! ベトナム戦争+枯葉剤=「昔の話」かもしれないが、ダイオキシン+沿岸魚の深刻な汚染=「日本」は今の話。「観たい映画」と「観るべき映画」を峻別し、賢い選択を……。

### この邦題から何をイメージ……?

団塊の世代の人なら誰でもこの邦題を見れば、「Where Have All The Flowers Gone? ……」で始まる、フォークの神様ピート・シーガーが作曲し、ピーター・ポール&マリーやザ・ブラザーズ・フォアらが歌った『花はどこへ行った』を思い出すはず。また多くの人がこの曲を歌うためにギターを買いに行ったはず……? 日本では加藤登紀子らがカバーしていたが、最近では Mr. Children がカバーしたため若い世代に知られることになったらしい。この歌はラスト直前に使われるが、もう1つ映画冒頭に歌われるのが、ジョン・バエズが歌う『雨を汚したのは誰』。この2つの美しいフォークソングは、1964年から始まったベトナム戦争に抗議する世界で最も有名な反戦歌。

坂田雅子監督初作品となったそんな邦題のドキュメンタリー映画は、彼女の夫であったフォト・ジャーナリストのグレッグ・デビスが、2003年5月肝臓ガンで死亡したことを契機として完成したドキュメンタリー。グレッグの死は、彼が1967~70年の間米軍兵士として南ベトナムで従軍中に、アメリカ軍がベトナムで散布していた枯葉剤を浴びたためだと確信した坂田雅子監督は、それをテーマとした映画製作を決

意。そこから、映画製作を基礎から学び、この映画を完成させたというから、まずはその熱意（執念？）に感心。映画全編にわたって彼女自身が語るナレーションの出来がイマイチなのは気にかかるが、スクリーン上は驚きの映像の連続！「ベトナム戦争なんて昔のことは興味ないヨ」などと言わず、次々と提示されるショッキングな映像を是非あなた自身の目で……。



© 2007 SAKATA Masako / 映画『花はどこへいった』より。

### 🎬 原題から学ぶべきことは……？

この映画の原題は『AGENT ORANGE—A PERSONAL REQUIEM—』。エージェント・オレンジとは、米軍がベトナムで使用した枯葉剤を入れる容器のこと。つまり、そこにはオレンジ色の横縞が入っていたため、その容器は「エージェント・オレンジ」と呼ばれたわけだ。ベトナムで使用した枯葉剤は除草剤の一種だが、そこには人体や環境に有害で遺伝子に損傷を与えるとされるダイオキシンが含まれている。このダイオキシンは、ゴミや産業廃棄物の焼却によって発生することは周知のとおり。

これぐらいの知識は私も持っていたが、チラシに書いてある、フォト・ジャーナリストで前・岐阜大学教授の中村梧郎氏の「日本のダイオキシン汚染」を読んで一瞬真っ青！つまり、「ベトナムでのダイオキシンは、もはや表土から流出した。元米軍基地周辺を除けばベトナムの魚介類の汚染は心配無い」のに対し、「実は日本こそ深刻なダイオキシン汚染地なのだ」という事実を知っておかなくてはならないこと。つまり、「日本の沿岸魚の汚染は深刻なレベル。それを知らずに食べる。私たちは『ベトナムはかわいそうだ』などと言っているわけにはいかない



© 2007 SAKATA Masako / 映画『花はどこへいった』より。DVD『花はどこへいった』発売：シグロ、発売時期：2月、価格：3990円（税込）

のである」ということだ。

もちろん、これは1つの学説にすぎないのだろうが、『AGENT ORANGE』という原題から私たちが学ぶべきことは多いのでは……？

## 同級生 (?) に拍手！

坂田雅子監督もグレッグも1948年生まれだから、1949年1月生まれの私と同世代(ひょっとして同級生?)。しかも、坂田雅子監督は京大文学部哲学科というから、どこかのデモの際一緒になったことがあるかも……？

学生時代の私にとっての「ベトナム戦争反対」は、ニュースや各種資料で知った情報を元にスローガンとして叫んでいただけで、具体的には何の接点もないものだった。そしてそれは、1970年にグレッグと出会い結婚した坂田雅子監督にとっても基本的に同じ……？ なぜなら、彼女がベトナム戦争や枯葉剤と真正面から向き合おうと決意することになったのは、2003年5月のグレッグの肝臓ガンによる死亡以降なのだから。

2003年から07年まで4年間かけてこれだけの取材をし、ドキュメンタリー映画という手法によって個人的体験をこれだけ大きな社会的問題提起に転化した同級生(?)の熱意に拍手！ 私もがんばらなくっちゃ。

## 「観たい映画」 vs. 「観るべき映画」

第1作3億8400万ドル、第2作3億3300万ドル、第3作4億7400万ドルと、全世界の興行収入が合計約12億ドル(約1200億円)にのぼる『インディ・ジョーンズ』シリーズの第4弾『インディ・ジョーンズ クリスタル・スカルの王国』(08年)が6月21日に公開される。多くの若者にとって、あるいは『インディ・ジョーンズ』ファンのおじさんたちにとって、これが今最高に「観たい映画」……？ その公開スクリーン数は膨大な数にのぼり、興行収入もあつと言う間にウン十億円！

これに対し、7月5日から大阪の第七藝術劇場を皮切りに順次単館公開される『花はどこへいった』が、何億もの興行収入をあげることは所詮ムリ。しかし、こんな映画こそ「観るべき映画」だと私は断言したい。さあ、あなたは「観たい映画」と「観るべき映画」をどのように峻別し、そのどちらを選択……？

2008(平成20)年6月4日記